

平成 16 年 8 月 3 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、需要好調な電気機械や輸送用機械等を中心として高水準の生産を続けており、またこうした製造業の好調業種を中心に積極的な設備投資が計画されている。しかしながら、雇用・所得環境に捗々しい改善がみられない中、個人消費は、一部に猛暑効果やオリンピック需要が見られるものの、基調としては弱めの動きが続いているほか、公共投資の減少や住宅投資の低迷により、建設・住宅関連も低調に推移していることから、全体としてみれば、製造業と非製造業の業種間格差を伴いつつ、なお回復感に乏しい状況が続いている。

2. 最終需要

(1)個人消費

個人消費は、雇用・所得環境の改善が捗々しくない中で、弱めの動きが続いている。猛暑やオリンピック需要により、季節商品やデジタル家電製品などの売上げが増加しているが、これまでのところ全体を押し上げるまでには至っていない。

(大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、気温の上昇に伴い飲料品や夏物衣料品の動きが活発化している。しかしながら、7月中旬の天候不順が猛暑効果を一部打ち消したほか、中元商戦も前年並み程度に留まっているなど、基調としてはなお弱めの動きが続いている。

(家電量販店売上高)

家電量販店の売上げは、ウエイトの高いパソコンや既存型商品が低迷しているため、全体では低調の域を脱していないものの、エアコン等の季節商品や薄型テレビ、DVDレコーダーの売上げが伸びている。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数(6月)は、新型普通車の販売ペースが鈍化しているほか、小型車に加えて軽自動車も前年を下回るなど、全体として低調な地合いが続いている。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、国内旅行に持直しの動きが見られる一方、海外旅行については、SARS等により激減した前年に比べれば大きく増加しているものの、水準としてはなお低調な地合いが続いている。

(2)住宅投資

新設住宅着工戸数(6月)は、主力の持家、貸家を中心に前年を下回り、低調な地合いが続いている。

(3)公共投資

公共工事請負金額(6月)は、一部大型工事の集中から6か月振りに前年を上回ったが、4月以降の累計額では前年を1割強下回っており、基調としては、予算規模の縮小を背景として減少傾向が続いている。

3.生産動向

生産は、需要好調な電気機械や輸送用機械、設備関連を中心にフル操業を継続し、高水準の生産が続いている。一方、建設関連では引き続き低水準の生産が続いている。

(電気機械)

半導体・電子部品は、カメラ付き携帯電話やデジタル関連製品向け出荷の好調からフル操業が続いている。

(輸送用機械)

完成車は、北米向け高級車の出荷好調から、高操業を続けている。また、自動車部品でも、乗用車メーカーからの受注が増加しているほか、トラック向けもアジア向け輸出が好調なことから、高操業を続けている。

(設備関連)

工作機械や空気圧機器では、自動車、半導体メーカー向け出荷の増加からフル操業を続けている。

(消費関連業種<時計部品、紙パ、食料品>)

段ボール原紙は、飲料品向け出荷の好調等から生産水準を上げている。食料品(缶詰)については、在庫調整からやや生産水準を引き下げている。時計部品は、輸出市場における競合等から、操業度を幾分引下げている。

(建設関連)

線材が中国向け輸出の増加から高操業を継続しているが、合板、セメントやコンクリート二次製品など多くの品目では、公共投資の減少や住宅投資の低迷を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率(季節調整後)は、3月以降3ヶ月連続して低下の後、6月は小幅ながら改善したが、所得面では、高操業を続けている電気機械や輸送用機械等の一部業種で所定外給与の増加が見込まれるものの、企業の人件費抑制スタンスに変化がみられないことから、捗々しい改善をみていない。

5. 企業倒産

6月の企業倒産をみると、件数は前年を下回ったが、負債金額は、大型倒産の発生から前年を上回った。7月については、件数は前年並みに留まったが、負債金額は引き続き前年を上回っている。

6. 金融動向

預金は、個人預金が堅調に推移していることから、全体として底固い動きを続けている。

貸出は、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているが、法人向け資金需要が引き続き低調に推移していること等から、全体では前年をやや下回った。

以上